

てんびんガイド だより



近江八幡観光ボランティア
ガイド協会 広報部発行
お問合せ
近江八幡駅
北口観光案内所
0748-33-6061
協会:HP/QR



「自分の言葉で近江八幡を伝える」 ー2026年度ガイド養成講座 終えるー

研修部教育担当 宮津 多佑

2026年度の「近江八幡観光ボランティアガイド養成講座」が、7月4日(土)・11日(土)・18日(土)に開催され、受講者10名の参加があり、5名の新規入会者がありました。

既会員の減少傾向と十分でない体調の会員が増えていく中で、今後の協会活動に新しい仲間が増えることはうれしいことです。

近江八幡の観光とそれに関わるガイド活動に関して、研修部教育担当として歓迎と期待を込めて、思うことを述べてみます。

まず、これからの観光は従来とは変わってきています。

①大挙して観光バスで訪れるお客様が減り、個人や小グループ単位が増えます。

②単なる物見遊山ではなく、知的満足感を得ることを求めて訪問されます。

上記のために、これからのガイドとして求められることは、対象物の歴史や謂れ(いわれ)を説明するのみならず、「自分の言葉でガイドをし、ガイド自身の人柄を通して近江八幡を案内する」ことではないかと考えます。

単に説明するだけであれば音声ガイドで済むのですが、お客様はわざわざ近江八幡に足を運んできているわけです。ですから、その土地に住んでいる人の言葉で説明を聞きたいと思うだろうし、近江八幡に浸れると感ずることでしょう。

話し方が流暢でなくとも、多少間違いがあってもいいかと思います。

「見る」「聞く」「触れる」「食べる」「体験する」ことも担当したガイドを通して、実感されるはずです。

そのためには、ガイドは自身が近江八幡を好きであり、住んでいることを誇りに思っていることが重要です。これを感じたお客様も近江八幡を好きになるのではないのでしょうか。

ガイドの資格として、近江八幡在住としていることもこの面からきています。

新しくガイドになられた皆さんも、担当されたお客様にとっては、まぎれもなく「近江八幡観光大使」そのもののなのです。



白雲館にて「オリエンテーション」



実ガイドの見学研修



トライアル研修へ

飛び出せ！近江八幡出張観光案内！！

近江八幡観光物産協会 事務局次長 白石 昌代

5月30日、三井アウトレットパーク滋賀竜王において「飛び出せ！近江八幡出張観光案内！！イベント」を開催しました。

当日は、近江八幡観光ボランティアガイド協会の皆さまにご協力いただき、観光紙芝居やクイズ大会、歌などを通して近江八幡の魅力を来場者へ楽しく伝えていただきました。

買い物に訪れたファミリー層を中心に多くの方が足を止められ、会場は終始にぎやかな雰囲気に包まれました。

ガイドの皆さまの明るいお声掛けや温かいおもてなしのおかげで、近江八幡の歴史や文化、安土城築城450年を効果的にPRすることができ、また、来場者との交流を通じて、近江八幡に興味を持っていただく良い機会となりました。

今回のイベントを無事に終えることができたのも、準備段階から当日運営までご尽力いただきましたガイドの皆さまのお力添えがあってこそのもです。心より感謝申し上げます。

らんまる君と駅長がちゃこん



紙芝居部 堀場 康治



三井アウトレットパーク滋賀竜王において5月30日13時から16時まで2部制で紙芝居を上演しました。

場所は南モール総合案内所横コミュニティステージで近江八幡観光物産協会、近江鉄道さん、清香88(蜂谷清香)さんの協賛で実施しました。

1回目の上演は、13時から14時05分まで。

紙芝居を30分、演目は「秀次さんと八幡商人のくらし」「名前を変えた小僧さん」。次にお客様参加型の出しものとして、クイズを20分、「みんなで歌おう」を15分実施しました。

クイズは、琵琶湖に関すること、近江八幡に関する歴史文化に関すること、三井アウトレットパーク滋賀竜王に関すること、を出題しました。

続いて「みんなで歌おう」では、「よし笛シスターズ」による合唱があり、「散歩」「上を向いて歩こう」「琵琶湖周航の歌」をお客様と一緒に歌いました。

三井アウトレットパーク滋賀竜王は、県外からのお客様も多く、たくさんの人(219人)に見ていただき、大変盛況でした。



近江鉄道株式会社 八幡山ロープウェー 副支配人 三露 元博



今回、このイベントによって弊社の実施している「近江八幡謎解きイベント」や他の施設のみなさま、観光ボランティアガイド協会さまのPRが出来たことは、非常に有意義であったと思います。

準備段階から皆様と情報交換をして、近江八幡の魅力をたくさんの方に発信できるお手伝いができたことも嬉しく思います。

ご来場いただいた方がイベントを楽しみながら近江八幡に興味を持ってもらえたと思います。

また、このようなイベントがあれば、ぜひ参加し、近江八幡の魅力を伝えて、地域活性化のお手伝いが出来れば幸いです。



謎解きイベントのパンフレット

八幡堀を散策しませんか？ 第5弾

「八幡町に於ける小堀遠州」に参加して

初古 裕子

5月23日広報部主催、前川さんによる「八幡堀を散策しませんか？」第5弾が旧伴家住宅にて実施されました。参加人数21名でした。

恥ずかしながら、小堀遠州について浅くしか知らない私にとっては良き機会でした。

小堀遠州(政一)は、茶道遠州流の祖として知られています。

父は浅井氏に仕え、その後豊臣、徳川と変わりますが、そのころ遠州本人は古田織部から茶道を学んだといわれています。また、家督を継いでからは城郭建築、作庭の名人、他に書家とも伝わります。

近江国奉行として第三次朝鮮通信使の馳走役となり、その際に不便であった給水設備(竹管による上水道)を新設し整備。古式水道と呼ばれ、後々各町内に広がります。

また、八幡堀を維持管理のため修復工事を行い、その費用を捻出する仕組みを作ります。才能は多岐にわたります。

こうして豊臣秀次が作った八幡の町が、その後小堀遠州によって発展しました。

今後は自分自身でもその功績を歩いて触れて感じたいと思います。



本願寺八幡別院



新・人・研・修

※武佐宿コース 北川 栄治

私事で恐縮ですが、愛荘町出身の私には中山道は身近な存在でした。ご存知の通り愛知川宿があり、私自身が生まれたところでした。ですが、愛知川宿の次が武佐宿とは知りませんでした。

今回、武佐宿を研修部の平松さんにご案内いただき、厨子二階や起り屋根の町家、本陣の門や蔵、商家の大橋家など、今も息づく町並みを見ることができました。また、問屋場や高札場、旅籠・木賃宿の役割、忙しい時には近隣の村々が協力していたことなど、地域で力を合わせて宿場を支えていた様子も知ることができました。



さらに、伊達政宗や川越藩にゆかりのある場所が残るなど、武佐宿が歴史の中で大切な役割を担ってきたことも感じられました。

研修を受講して、聖徳太子にまつわる伝説や、現代に通じる伊庭貞剛氏の功績など、時を超えて紡がれてきた営みを「武者竜胆(ムシャリンドウ)」と共に大切に語り継いでいきたいという思いを強くしました。



愛の神(愛之大神)



旧八幡警察署武佐分署

※沖島コース 樋口 哲二

6月16日(火)は曇り時々晴れの沖島日和。

新人3人(沖島2回目辻川・5回目吉川・初上陸樋口)は、ガイド指導 研修部 坂倉さん・研修部長 山本潔さん・新人教育担当 宮津さん・広報宣伝部長 柳生さん・B班長 山本守俱さんの5人に同行いただき、9:15堀切港を出発しました。10分程で到着、昭和にタイムスリップしました。まずは、坂倉さんより、島の概要を伺い、いざ出発。

- ①小さな突堤からの琵琶湖と景色 ②琵琶湖の湧き水が上水道
- ③奥津(おくつ)島神社ではなく瀛津(おきつ)島神社
- ④セトウラ側の住民は港側に移住 ⑤消防艇 ⑥沖島小学校
- ⑦湖底ケーブル陸標 ⑧湖魚売店 ⑨展望台
- ⑩琵琶湖沖ノ島の歌 ⑪石切り場・下水処理場 ⑫西福寺
- ⑬願證寺 ⑭港の売店等をテンポよく説明いただきました。

時間切れの場所もありましたが、あっと言う間の2時間でした。沖島12:00発の船は、超満員、立ち席10人程でした。坂倉さん、皆さまありがとうございました。



湖底ケーブル陸標



願證寺

✧八幡山コース 吉川 久代



八幡山 大平(おおだいら)にて

三度目の正直！ふるさと観光塾の1/31は雪で中止となり、八幡山研修の6/20は雨で登れず座学のみとなりました。

今回急遽組んでいただいた6/23午前中にやっと新人4名は八幡山に登ることができました。

山本研修部長の「湖東流紋岩」講座でスタート。座学で予習のルート(小平→大平)をゆっくり。登山道の真ん中に「矢穴」のある岩、その先の「大日・大聖不動明王」の鳥居を進むと「大日大聖不動明王」を祀る立派な社殿、とどちらも驚きでした。日々お世話されている方には頭の下がる思いです。

村雲御所瑞龍寺門跡では世話役鈴木様より縁起について本当に詳しくお話しいただきお寺の歴史に想いを馳せる時間となりました。西の丸跡で、琵琶湖や比良山系までの眺望を満喫の昼食タイム！

ここでロープウェー組と二手に分かれ、私は、徒歩組。

出丸跡を真下から見た喜びもつかの間…落ち葉に足をとられ見事に尻もちをつきましたが、「身体をはった取材ですね～」の声を背に無事八幡公園まで下ることができました。

日程変更に対応いただいた研修部の皆さま、瑞龍寺様ありがとうございました。

そして午後はヴォーリズコース研修に続く…



瑞龍寺から望む比叡山



出丸跡石垣

✧ヴォーリズコース 辻川 光枝

どの施設の研修も有意義でした。

「ウォーターハウス記念館」は、外から眺めていただけで、中に入ったことがなかったので、ヴォーリズの合理的で、勝手のよい工夫が、至る所に施されているのを見学させていただけて良かったです。

「ヴォーリズ記念館」では、藪館長の軽快な話術で、解りやすく、その口調で、問題提起されると、更に学びたい…と思いました。

「ハイド記念館」では、辻友子館長の楽しいお話、ヴォーリズ夫妻と時を共にされていたことを、お聞きしてヴォーリズさんを身近に感じることができました。

今回の研修の機会を与えてくださった先輩ボランティアさん、当日の企画・ガイドを担当して下さった研修部毛利さんに感謝申し上げます。



ウォーターハウス記念館



アンドリュース記念館

安土城築城450年事業 記念イベント 事業運営部 富岡 容生



織田信長が3年かけ安土山に豪華絢爛な城を手掛けて450年。そこで記念イベントとして、近江八幡市観光ボランティアガイド協会の八幡支部と安土支部の合同でJRふれあいハイキングを計画しました。

近江八幡駅を出発、西光寺や本願寺八幡別院をまわり、朝鮮人街道を歩き長田町の入口にある高木神社までを八幡支部が、その後を安土支部が担当され景清道を通り安土駅で昼食、城郭資料館の自由見学、午後から安土城跡のふもとまで行き安土駅へ戻る約12キロの行程で、各支部4人のガイドと受付等の対応を含め各回10人余りが稼働。希望者が安土城跡へ登れるよう安土支部で対応されました。

また、朝と昼食後には「信長隊安土衆」と共に勝鬨を上げ、士気を高めて出発！と様々なおもてなしを楽しんでいただけたと思います。

これまで4回実施し、延べ268名、一番多い日は90名と予想をはるかに上回る参加者があり、毎回2～3割の方が安土城跡へ入山されたとか。中には、東広島市や豊橋市から始発に乗ってまでお越しくくださった方もあり、参加者の健脚ぶりと「安土城」の集客力に圧倒されました。

実施にあたり、事前に安土支部の担当者と配布用の資料を作ることになりましたが、「信長がひらいた

街道をゆく」…はて？…定番の散策コースを定番の内容でガイドをしている私には、信長の時代が終わった後につくられた豊臣のまちで、信長縁(ゆかり)の場所などは数えるほどしか思い浮かびませんでした。たとえば「朝鮮人街道」なら徳川家康が関ヶ原の合戦後に通り上洛した道で、江戸時代友好親善のために朝鮮通信使が江戸へ向かった道ですね。

実はこの道、信長が岐阜から安土を経由して京へ向かう時に中山道では遠回りのため、琵琶湖沿いで通行量が多い農道を継ぎ足してできた道で、秀次もこの道の活用を推奨し、徳川の時代この道に権威をもたせるために参勤交代には使わせなかったとか。(諸説あるかと思いますが)

日頃の勉強不足を猛省しつつ、協会の資料や各所の図書を頼りに読み漁り、何とか仕上げることができました。この事業でふるさと安土とつながる活動ができ歴史的な魅力が再発見できたこと、何よりも勉強嫌いだったのに知ることがとても楽しくなったことが、私の一番の成果です。

この記念ハイキングは、今年いっぱい開催します。10月は両支部それぞれが計画。ちなみに八幡支部は10月17日に、まちなみの信長縁(ゆかり)の場所を巡り水郷を歩く約8キロの行程です。11月21日は中山道、12月9日は朝鮮人街道を含めた定番コースでいずれも約12キロをお楽しみいただけるよう安土支部と合同で行う予定ですので、多くのお客様がご参加くださることを心からお待ちいたしております。

関係者の皆様、ぜひとも我がまちの魅力再発見にお越しく下さい。

